

平成28年度北海道農産物鑑定研修会

日時：平成29年1月26日(木) 10:00
場所：北農ビル19階(札幌市)

昨年は10回目の鑑定研修会を開催し、大いに盛り上がった記念研修会となりましたが、本年も全道各地区の精銳検査員130人が集結し、日頃の鑑定技術を競い合い満点者が複数であるなど優秀な成績を残しました。

主 催 者 挨 捶



一般社団法人 北海道米麦改良協会
専務理事 大西晃靖

本年は複数の台風や天候不順などの被害により、検査には苦労の多い年でしたが、検査員をはじめ関係者の努力で北海道農産物の評価を落とすことなく、難局を乗り越えられました。

また、農産物検査は精米表示の根拠や各種制度資金交付の要件に活用されるなど、消費者や流通業者からも信頼性と公平性を必要とされ、社会的にも重要な仕事でありますので、自らを律しながらもその意義を同僚や後輩に伝承していくことが、検査員に課せられた大きな仕事でもあります。

さらに北海道の検査は不適正な農産物検査の発生以降、各JAを中心に関係機関・団体とともに総力をあげて再発防止に取り組んでまいりました。今後も後退することなく法令遵守に基づく農産物検査をしなければなりません。と結んで日頃の業務についての感謝と心構えを参加者へ強く呼び掛けました。

来賓挨拶



ホクレン農業協同組合連合会
米穀事業本部 米穀部長 田辺裕一

過去の北海道米は産地としての知名度が低く不遇の時代もありましたが、現在では「ゆめぴりか」などの良食味品種も導入され、生産者の栽培技術の向上と平成13年から始まった民間検査により適確に格付けされたものが流通したことから、最近の日経新聞が調べた米産地の知名度アンケート結果では北海道が新潟に勝るほど、北海道の知名度が向上しており、道内における北海道米食率も過去は50%程度でしたが、現在では90%程度まで向上しております。

平成28年産は天候不順により、例年以上に乳白や腹白粒の発生等があったことから、格付けは大変な年であったと思いますが、現在のところ品位クレームがほとんど報告されておりません。これは検査員の皆さまが適正な検査をしてくれた結果でありますので、全検査員に御礼を申し上げるとともに、これからも鑑定技術の研鑽に努め、適正な検査の推進を是非お願いしたい。とエールを送って頂きました。

受講風景



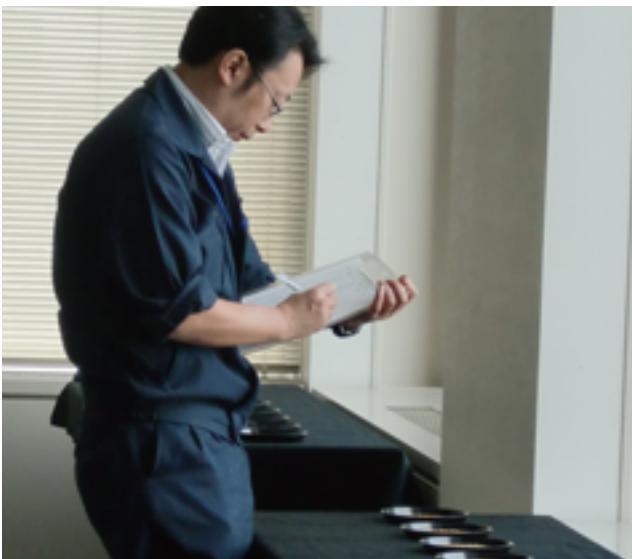
<玄米>



<玄米>



<小麦>



<小麦>



<大豆>

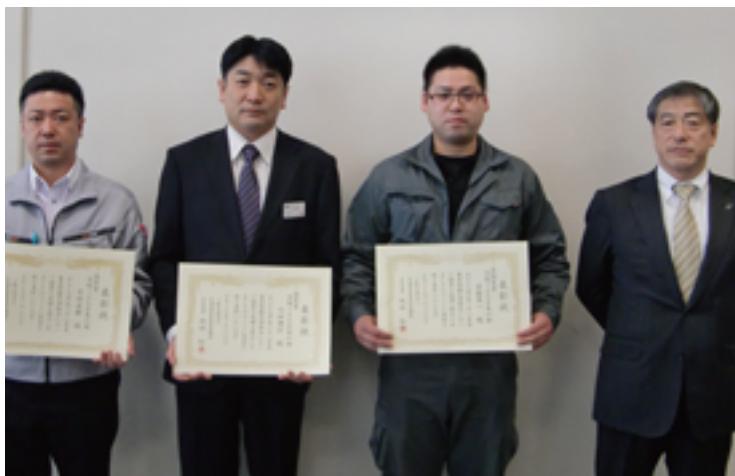


<大豆>



本年度の成績優秀者表彰

<玄米表彰者>



左から 吉田氏 川田氏 安藤氏 大西専務

■水稻 うるち 玄米の部

最優秀賞	JAきたひやま	安藤 隆一
優秀賞	JAきたそらち	川田 博行
優秀賞	JAたいせつ	吉田 直樹

<小麦表彰者>

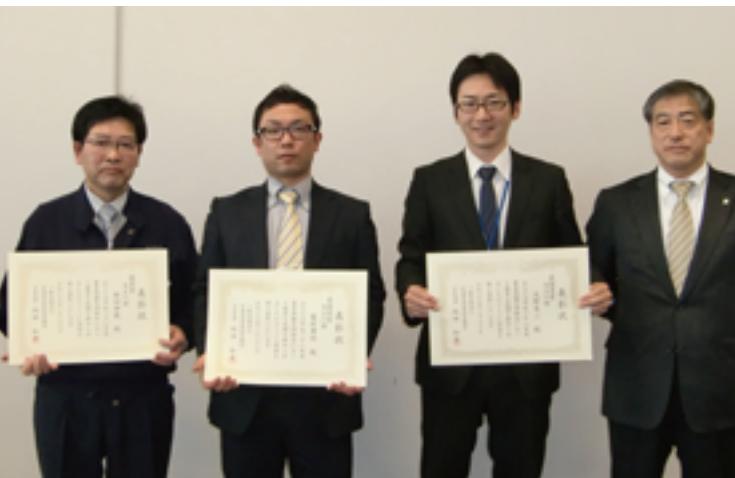


左から 北村氏 佐藤 諒氏 佐藤 雅俊氏 大西専務

■普通小麦の部

最優秀賞	JAびばい	佐藤 諒
優秀賞	JAきたそらち	北村 勇気
優秀賞	JAいわみざわ	佐藤 雅俊

<大豆表彰者>



左から 植田氏 藤村氏 天野氏 大西専務

■大豆の部

最優秀賞	JAピンネ	藤村 康絃
優秀賞	ホクレン 北見地区穀物調整工場	天野 竜二
優秀賞	JAめむろ	植田 伸範

閉会挨拶



一般社団法人 北海道米麦改良協会
事務局長 高橋幸雄

今回の参加者への労いと、受賞者の優秀な検査技術を賞賛し、今後もさらなる技術の向上を目指し、意欲をもって自己研鑽することをお願いしました。

また、北海道農産物の信頼性確保のためには、関係法令に則った適正な検査の実施が不可欠であることや、新たなシステムの活用により間違いのない事務処理を進めて欲しいことなど、今後の検査員への期待も込め、研修会を締めくくりました。

～農産物検査員の心得～



- 私たちは、農産物検査法及び業務規程に忠実で適正な検査業務を行います。
- 私たちは、公正かつ誠実に検査を行うべき責務を深く自覚し、法に基づく命令や規程を遵守して職務の遂行に当たります。
- 私たちは、独立した組織として、正義を貫き何人の制約を受けません。
- 私たちは、常に最新の知識を習得し、的確な業務を遂行致します。